

炎症性腸疾患先進治療センターの紹介

炎症性腸疾患先進治療センターの活動内容と今後の取り組みについて

当センターの診療の現状、活動内容とこれからの取り組みなどについて、以下にご紹介いたします。

IBD 専門外来

IBD専門医が外来を務めるIBD専門外来(水曜日と木曜日)を開始しました。IBDの治療は進化しており、生物学的製剤をはじめ多くの新規治療薬が治療の選択肢となっています。これらの薬剤は高い治療効果を発揮しIBD患者さんの福音になっていますが、一方で複雑

化する診療のため適切な治療選択やわかりやすいインフォームドコンセントの実践が容易ではない状況にあります。また、新型コロナウイルスが蔓延している状況での免疫制御療法は通常時より慎重な治療選択かつリスク管理が必要です。こうした点からも、初診や治療抵

抗性のIBD患者さんには専門医の診療が必要であり、専門外来で対応したいと考えています。IBDに関する診断、治療でご紹介いただく際には、事前に当院地域医療連携センターにご連絡いただければ、確実にIBD専門外来を活用していただくことが可能です。



消化器内科カンファレンス

毎週火曜日に消化器内科入院中の症例を中心にカンファレンスを行っています。外来患者さんに関

する相談や他科からの相談にも門戸を広げています。

IBD 多職種カンファレンス

IBD診療に関わる診療科の医師(消化器内科、消化器外科、小児科、産婦人科、病理部など)、看護師、薬剤師、管理栄養士、他のコメディカルスタッフやソーシャルワーカーで構成されるメンバーが月に一回集まって、症例検討や各部門の改善点などを検討します。センター

開設の大きな目的の一つは、職種や診療科の垣根を越えたチーム医療を実践することです。IBD患者さんに「専門的で総合的な診療」を提供するためにチーム医療を軸とした多職種のサポートで支えていきたいと考えています。

4ページへつづく▶



炎症性腸疾患先進治療センター
センター長 平井 郁仁
ひらい ぶみひと

IBD 教室

患者さんやご家族には疾患への理解や治療に対する啓蒙を深める必要があります。糖尿病教室はいろいろな規模の病院で行われていると思いますが、われわれはIBD教室を開催することで啓蒙活動の一環としたいと思っています。疾患

特異的な留意点、最近では感染対策や新型コロナウイルスに対するワクチン接種に関する事項などその都度トピックを取り上げ、開催する予定です。また、相談窓口としての機能も期待しています。医療関係者のご参加も歓迎いたします。

月一回の開催を目標にしていますが、今後、開催日時や場所などを病院ホームページで告知していきますので、ご確認いただければ幸いです。

治 験

IBDの病態が解明されていく中で、高い有効性を持つ新薬が多数創出され、汎用されております。しかし、根本的治療はなく、一つの薬剤あるいは治療で全ての症例に満足する治療を提供できる状態ではありません。治療抵抗性の難治例もしくは長期の経過で薬剤の効果が減弱してくる患者さんも存在します。このような場合には、複数の機序の薬剤を有効に使用する

ことが治療の質を上げる手段になります。このような観点から当センターでは、有効性が期待される治験への参加を積極的に行っていきます。当センターが参加している治験については、病院ホームページ内の臨床研究支援センターが作成する「治験・臨床研究について」をご参照ください。対象疾患や参加基準が記載されていますので、該当症例で希望される方がいらっ

しゃいましたらIBD専門外来へご紹介いただければ幸いです。

当センターは開設されたばかりで、まだまだ十分な体制とはいえません。しかし、当院の理念である「あたたかい医療」を大前提とし、全てのIBD患者さんに「専門的で総合的な診療」を確実に提供するために、努力してまいります。よろしく願い申し上げます。



IBD 多職種カンファレンスにて

Open! 当院では、
各種SNSを
開設しています!

福大病院ニュース

公式YouTubeチャンネル
<https://www.youtube.com/channel/UCYwM03PwlaDYNvXTXVUocA>



Facebook
<https://www.facebook.com/FukuokaUniversityHospital/>



twitter
<https://twitter.com/FukuokaUnivHosp>



instagram
<https://www.instagram.com/fukuokaunivhosp/>



福岡大学病院

〒814-0180 福岡市城南区七隈七丁目 45 番 1 号
TEL (092) 801-1011 代 URL : <https://www.hop.fukuoka-u.ac.jp/>



放射線治療機器の紹介

新リニアックの紹介と放射線治療について

放射線治療機器の紹介

高精度放射線治療装置 Halcyon について

新リニアック Halcyon の紹介

当院は2021年1月からHalcyon (ハルシオン)という名前の新しいリニアック(放射線治療機器)を導入しました。回転IMRT (VMAT)が可能で、従来のIMRTと比較し、より高品質なケアが可能となり、治療時間の短縮による運用効率の向上と患者様への負担軽減が大きな特徴です。IMRTは、日本語で強度変調放射線治療といいます。通常の放射線治療は、決められた照射範囲に均一なエネルギーの照射を行います。IMRTは強度を変えながら照射することができるので、照射範囲の中で高線量領域と低線量領域を作ることができます。つまり腫瘍に高線量照射を行い、避けたい正常臓器の線量は低減できるというわけです。現在は、脳腫瘍、頭頸部がん、前立腺がんを中心にIMRTを行っています。徐々に適応拡大しており、頸部食道がん、肛門管がん、膣・外陰がん、非小細胞肺癌、その他にも



正常組織の線量を低減する必要のある症例などに行うことがあります。

また、Halcyonでは定位放射線治療も行っています。定位放射線治療はピンポイント照射とも言われ、根治を目的として1回に大線量を限局した部位に照射することが可能で、1回～数回で治療が終了します。以前から原発もしくは転移の肺癌や肝臓がんによく行われていましたが、

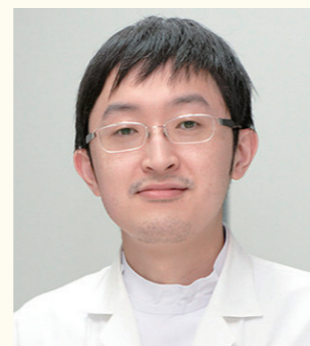
Halcyonの導入をきっかけに、少数個の脳転移、脊椎転移、脳腫瘍の一部、少数個の転移などにも定位放射線治療を開始しています。脳転移に対する定位放射線治療はガンナイフとほぼ同等の治療効果が期待できるため、ガンナイフ施設へ紹介することなく当院で治療が可能となりました(原則、5cm未満、5個以内が対象)。

緩和照射について

さて、Halcyonの紹介はこのくらいにして、当院ではもう一台リニアック(Clinac21EX)があり、根治照射から緩和照射まで幅広く対応しています。緩和照射とは、がんの進行により、痛み、通過障害、出血などのがんに伴う症状が出現した場合に、少量の放射線治療を行い、症状の緩和を目的とする治療です。30Gy前

後の線量を1～2週間ほどの期間で照射します。根治を目的とした場合は60～80Gyの照射を行うことが多いですが、緩和照射の線量は半分以下です。がんが消えることはまれですが、がんの進行を抑制し、症状の緩和に期待できる副作用の少ない治療です。例えば、骨転移で痛みが強く鎮痛剤効果が乏しい場合でも、

緩和照射をすれば7～8割で痛みが軽くなり、その中でも1～2割の人は痛みがほぼ消失します。緩和照射はがんの症状で悩んでいる人にはとても効果的な場合があり、生活の質の向上につながるかもしれません。



放射線科
医師 赤井 智春
あかい ともはる

た照射まで幅広くがん治療に対応しています。

放射線治療できるかな?と思ったからお気軽にお問い合わせください。患者さんの場合は、病状を把握する必要がありますので、まずは担当の先生にご相談ください。

最後に

治療機器、照射技術は年々進出し、昔と比べると治療成績は向上して副作用の低減が可能となりました。手術、化学療法と組み合わせることも多く、集学的治療の柱の一つとなっていて、根治を目指した照射から症状緩和を目的とし

放射線治療装置を更新しました

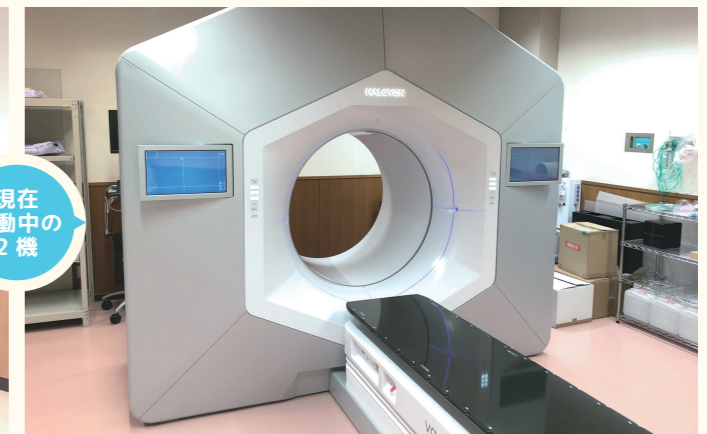
昨年まで当院放射線治療部では汎用型放射線治療装置2機で放射線治療を行ってきました。そのうちの1機は20年稼働し続けてきた旧型機で、セットアップの煩雑さや治療時間の長さ、その厳しい外観と不快な機械音が治療中の患者さんに少なからず不安やストレスを与えていました。それでも長らく現役で頑張っ

きたこの装置ですが、近年いよいよ治療精度の管理維持や故障時の部品調達さえも困難となり、つい以前年度機器更新の運びとなりました。代って導入されることとなった新装置はバリアンメディカルシステムズのHalcyon(ハルシオン)、2019年3月、日本に第1号機が配置されて以来国内7機目、九州では2機目(当

時)となるIMRT:強度変調放射線治療(VMAT:強度変調回転放射線治療)特化型高精度放射線治療装置です。折り悪しくコロナ禍の中での更新日程でしたが、予定からさほど遅れることもなく、約3か月の工事期間の後2020年12月設置完了し、ビーム調整後今年1月より正式稼働となっています。



Clinac21EX (汎用型放射線治療装置)



Halcyon (IMRT 特化型放射線治療装置)

Halcyon は3つのコンセプトをもとに設計されました

1.「高品質なケア」

全症例IGRT(画像誘導放射線治療)を行うことにより再現性の高い正確な放射線治療が可能となりました。操作者が代っても治療精度が損なわれることはありません。

2.「運用効率の向上」

従来機の4倍のガントリ回転速度と高線量率ビームにより迅速な放射

線治療が可能となりました。汎用型放射線治療装置で20分を要していたIMRTがHalcyonでは10分以内で完結します。よって患者さん一人一人に対応する時間を十分に取ることができます。現在IMRTの適応のある患者さんは皆このHalcyonで治療を行っています。

3.「人にやさしいデザイン」

リニアモーターによる静かな治療環境、コンパクトな筐体でありながらCTやMRIと比べても圧倒的に圧迫感の少ない100cmの広い開口径、治療台も乗り降りしやすい高さまで下がり、患者さんにやさしい設計となっています。

その他の優れた性能

また高い安全性も確保されています。衝突の可能性のないリング型のガントリ、万一のための衝突検出機構、患者さん自身で本人確認することのできるガントリ搭載のタッチパネル、マシンパフォーマンスの自動チェック機能、シンプルなワークフローやユーザーインターフェースがインシデントを未然に防ぎます。

これらの高度なシステムとやさしいデザインが治療中の患者さんに与

える不安やストレスを大幅に軽減すると同時に操作者のストレスをも軽減させます。福岡大学病院放射線治療部ではこのIMRT特化型高精度放射線治療装置Halcyonの導入により、多くの患者さんが短時間で快適に治療を受けられるようになりました。そして今まで以上に、安全で安心な放射線治療を提供することができるようになりました。



放射線部
放射線技師 森本 祥一
もりもと しょういち